

りて尊信を得しことは、碑に記さるゝ所なれば、時代の上よりすれば、兩者必ずしも一致せるに非ず。更にまた銘に『宣傳聖教、實稱蕃心、諸國肅清、于今無事、豈不由將軍善導者、爲功之大矣、』とあれば、阿羅憾が一宗の宣布に盡粹して、頗ぶる効果を擧げたるものなるを知るべく、此の點よりしても亦此れを阿羅本と比定して不可なるなし、凡そ唐代波斯國人の宣傳し得べき宗教には祆教 (mazdeism) 摩尼教 (manicheism) 及び景教 (nestorianism) の三者あり、而して阿羅憾の傳へたりと稱せらるゝ聖教なるものが、此等の中の何れなるかは、俄かに定め難しと雖、銘に唐の爲に拂林諸蕃招慰大使として、其の國に使せりと記せるよりして考がふれば、亦た必らずしも推測し得ざるに非ず、蓋し拂林國の何地なるかは問はずとするも、其の國に尊信せられし宗教が基督教にして、然かもそのネストル教なりしことは、今更ためて説くを要せざる所なり、今唐より特に波斯人を撰びて、ネストル教國に使せしめしを見るもの、誰か此れを以て摩尼教、もしくは祆教の宣教者なりしと見るの當れるを説くものあらむや、特種の理由の存せざる限りは、此の使命に任せし阿羅憾を以て、景教宣傳者の一人なりしと認むるも、決して不當に非るべし。(第三項参照)

以上述ぶる所によりて考がふれば、此の兩者を以て同一人と見、従がつて此の丘銘を以て、景教の鼻祖阿羅本の墓誌と見得るが如しと雖、然も此の如きは陶齋藏石記が、此れを以て卑路斯父子の何れかに相當せしめんとしたると同一規に出づるものならずんばならず、即ち上數項の點に關しては背馳する所なきが如きも、銘に見ゆる其の他の記事は、到底阿羅本の記事と合一せしめ能はざるものあるを以てなり。由來阿羅本に關しては、景教碑に記するものゝ外は、僅かに唐會要(卷四十九)に貞觀十二年七月の詔を載せて『波斯僧阿羅本、遠將經教、來獻上京、詳其教旨、